

## 平成27年度 公益社団法人指宿市観光協会 事業計画

今年度は九州新幹線全線開業と観光特急「指宿のたまて箱」運行から4年目を迎えますが、鹿児島・南薩への誘客の起爆剤となるものが今一つ欠けており、併せて桜島の噴火に対して鹿児島全体の観光地を敬遠する動きも出ておりません。

そのような中、今年3月14日、北陸新幹線が開業。東京から金沢までの所要時間は最速列車2時間28分で行けるようになり、マスメディアは毎日のようにその特集を組み、デイリーで目にすることが多くなりました。

また、東日本大震災から4年目の震災地復興ブームも再燃し、東北・北陸に必然的に目が向くようになり、南九州全体として由々しき状況下におかれています。

日本経済は消費税2%増税の施行予測の意識から、一般家庭の消費控えも尚一層懸念され、その動向を見極め事業を展開していかなければならない厳しい時代になると予想されること、また今後急速に進んでいく高齢化の波は国内旅行に於いて、どの観光地も旅行客減少は避けられないことが予測されます。

このような状況下において、27年度は以下の取り組みをしていきたいと思っております。

### 1. 海外誘致(インバウンド)対策

国内経済が厳しい反面、円安効果による外国人観光客の旅行者は増加に転じており、今後本市への海外入込みは台湾を中心に顕著に伸び、鹿児島空港国際線での台湾直行便の週4便、昨年3月就航の香港への週2便に加え上海線も4月から週4便になり、アジア、欧米の観光需要は期待ができるものと予測されます。

これは直近の地区別宿泊統計(当観光協会調べ/市内15社対比)により、海外からの宿泊客が伸びている数字(対前年比9.8%増/平成27年1月現在)から、指宿の宿泊入込前年対比をカバーしていることが如実に表れております。

そのために・・・

- ① 商店街や宿泊施設への多言語ポスター等の掲示やマップ・メニュー等、多言語化の推進
- ② 昨年10月に台湾南部の北投温泉(台北市温泉発展協会)と指宿温泉(指宿市観光協会)の姉妹盟約の締結により、今後両市との観光・文化・物販の相互交流の推進
- ③ 第3回“指宿 2016 春節フェスティバル”の実施  
旧大晦日にあたる2月に、指宿市内に宿泊されたアジア系外国人と、地元や関係者とのお祝いと交流。
- ④ 市受託事業「菜の花キャンペーン」(海外地区)において海外エージェントへの誘客強化。

以上について強化・推進を図っていきます。

## 2. 新規事業の取り組み

宿泊客数は前年並みとはいえ、観光特急列車「指宿のたまて箱」の人気は今でも国内外で高く、乗車率は依然高いままです。

指宿駅構内観光案内所・宿泊施設でのレンタル電動自転車の貸し出しや砂むし会館「砂楽」の入浴者数も上々であります。

また、食におきましては「温たまらん井」「温たまらん豚」「そら豆スイーツ」に加え、山川産の本枯節を使った「鯉武士ラーメン」等で地元特産品の食材をテーマにPRしてまいりました。

これに続く商品開発も含めて、関係団体や事業所、物産館等と連携し、都市部と農水産業地域が交流することを目的とし、そのうえで地域製品のブランド化や消費拡大による収入増を図れることから後継者育成を推進するための農水省事業「平成27年度農村集落活性化事業」に申請いたしました。

これをもとに、2年間継続し培ってまいりました観光庁事業「誘客のためのモニターツアー」や着地型観光として「都市に住む女性をターゲットとした30の個人型プログラム開発「きら★旅」をブラッシュアップし、都市交流からの引き込みの一つとして提案していきたいと考えます。

## 3. イベントの取り組み

本市を代表する菜の花マラソン、マーチ、フラフェスティバルは国内でも知名度の高いイベントに育ち、また組織的にも成熟してまいりました。今後とも慢心することなく運営をすすめていきたいと思えます。

今年は第30回国民文化祭かごしま 2015(平成27年10月31日～11月15日)に合わせ、県内の観光協会と関連団体が、かごしま観光祭(仮称)を期間中(平成27年10月30日～11月8日)に計画いたします。当観光協会も鹿児島観光実行委員会のもと、地元商工会議所やその他関係団体等と連携して食、芸能、文化等の情報発信イベントの実施に努めていきます。

## 4. 広域観光の連携・推進

広域的連携として、南薩摩(開聞・山川・南九州市・枕崎市・南さつま市など)と大隅、離島(種子島・屋久島)の着地型観光の拠点づくりと積極的な観光受入体制の構築を尚一層進めてまいります。